

平成25年行政事業レビューシート

(文部科学省)

<b>事業名</b>	国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進		<b>担当部局庁</b>	初等中等教育局		<b>作成責任者</b>	
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	開始：平成24年度、終了：未定		<b>担当課室</b>	教育課程課		教育課程課長 塩見みづ枝	
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>政策・施策名</b>	確かな学力の向上、豊かな心と健やかな体の育成と信頼される学校づくり Ⅱ-1 確かな学力の育成			
<b>根拠法令 (具体的な 条項も記載)</b>	—		<b>関係する計画、 通知等</b>	日本再興戦略-JAPAN is BACK-(平成25年6月14日 閣議決定)			
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3程度以内)</b>	国際バカロレアの認定校の増加を視野に入れ、国際バカロレアレベルの教育を実施する学校を増加させるため、国際バカロレア資格の認知度の向上や裾野の拡大を図るとともに、我が国の教育課程や指導方法の改善に資する。						
<b>事業概要 (5程度以内。 別添可)</b>	国際バカロレアレベルの教育を実施する学校を増加させるため、国際バカロレアの理念を生かしたカリキュラムづくりを行う学校を指定し、国際バカロレアの趣旨を踏まえたカリキュラムや指導方法、評価方法等に関する調査研究を行う。						
<b>実施方法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
<b>予算額・ 執行額 (単位:百万円)</b>	予算 の 状 況	当初予算	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求
		補正予算	0	0	0	0	14
		繰越し等	0	0	△1	0	
		計	0	0	14	15	14
	執行額	0	0	10			
	執行率(%)			71%			
<b>成果目標及び 成果実績 (アウトカム)</b>	成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (26年度)
	成果実績:国際バカロレアレベルの教育を実施する学校の増加と我が国の教育課程や指導方法の改善		成果実績	—	—	—	400
成果指標:本事業による調査研究成果の普及を図るために実施する研究協議会への参加者数		達成度	%	—	—	—	
<b>活動指標及び 活動実績 (アウトプット)</b>	活動指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	本事業における調査研究により構築される国際バカロレアの趣旨を踏まえたモデルカリキュラムの数(本事業の指定校数)		活動実績 (当初見込み)	(—)	(—)	(5)	(5)
<b>単位当たり コスト</b>	1,785,393(円/校数)		算出根拠	単位当たりコスト=執行額/校数(8,926,966/5)			
平成25・26年度 予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由			
	諸謝金	0.4百万円	0.4百万円	会議関係経費の積算単価の見直しによる減			
	職員旅費	0.4百万円	0.3百万円				
	委員等旅費	0.7百万円	0.6百万円				
	教職員研修費	0.2百万円	0.2百万円				
	初等中等教育等 振興事業委託費	13.7百万円	12.2百万円				
	計	15.3百万円	13.8百万円				

事業所管部局による点検					
項目		評価	評価に関する説明		
必要投入の	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。	○	本事業は、「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」において掲げられている国際バカロレア認定校の大幅な増加といった目標の実現に資するものであり、教育課程や指導方法の改善とともに、国際バカロレア資格の認知度の向上や裾野の拡大を図るために国として推進していく必要がある、優先度の高い事業である。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	○			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	支出先の選定に当たっては、十分な公告期間を確保した上で公募(企画競争)を実施しており、その妥当性や競争性を確保しているところ。事業年度毎に各事業者から提出される事業実施計画書(事業開始前)及び事業完了報告書(事業完了後)等において、各支出先における使途を把握し、経費の使用状況や事業目的との整合性について確認を行っている。また、必要に応じて提出書類のみでは確認が不十分な場合には、個別に問い合わせるなど、各支出先における使途の把握に努めている。不用については、説明会の会場等を見直すことにより、会場借料等を安価に抑えるとともに、当初の予定よりも委託契約期間が短くなったため、委託先における経費執行が縮減された結果生じたものである。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○			
	単位当たりコストの水準は妥当か。	○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○			
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○				
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	本事業の実施に当たっては、指定校が研究を進める際に参考となる資料を作成するとともに、本事業の趣旨等に関する説明会を開催した上で募集を行うなど、より効果的に推進していくための工夫を図っている。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)				
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名		
点検結果	「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」において、「一部日本語による国際バカロレアの教育プログラムの開発・導入等を通じ、国際バカロレア認定校等の大幅な増加を目指す(2018年までに200校)」との目標が掲げられているが、我が国における国際バカロレアの認知度は決して高いとは言えず、認定校数も一条校では6校(平成25年6月現在)(インターナショナルスクールを含めても24校)にとどまっている。このような中、この目標の実現に向け、一部日本語による国際バカロレアの教育プログラムの開発・導入を進めると同時に、まずは国際バカロレアレベルの教育を実施する学校を増加させるため、本事業の指定校において国際バカロレアの趣旨を踏まえたモデルカリキュラムを構築することにより、国際バカロレアの認知度の向上や裾野の拡大を行うことが必要である。なお、文部科学省においては、本事業の実施に際し、指定校が研究を進める際に参考となる資料を作成するとともに、本事業の趣旨等に関する説明会を開催した上で募集を行うなど、効果的に推進していくための工夫を図ったところであり、引き続き、指定校間での情報共有の場を設けたり、研究への助言を行ったりするなど、より効果的に推進していく必要がある。				
外部有識者の所見					
本事業においては、当初の計画通り調査研究が進展していると認められる。しかしながら、より効果の高い事業とするため、指定校間での情報共有の場を設けるなどの改善を検討すべきである。					
行政事業レビュー推進チームの所見					
事業内容の改善	<p>1. 事業評価の観点:この事業は、日本再興戦略-JAPAN is BACK- (平成25年6月14日 閣議決定)を踏まえ、国際バカロレアレベルの教育を実施する学校を増加させるため、国際バカロレアの理念を生かしたカリキュラムづくりを行う学校を指定し、国際バカロレアの趣旨を踏まえたカリキュラムや指導方法、評価方法等に関する調査研究を行う事業であり、予算執行状況の観点から検証を行った。</p> <p>2. 所見:この事業は、平成24年度開始の事業であり、経費の節減に留意しつつ、当初の計画通り着実に調査研究が進められているが、今後においても事業規模の適正化やコスト削減に留意しつつ、効果的・効率的な事業の実施に努めるべきである。</p>				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
縮減	本事業の実施に当たっては、指定校が研究を進める際に参考となる資料を作成するとともに、本事業の趣旨等に関する説明会を開催した上で募集を行うなど、より効果的に推進していくための工夫を図っている。また、平成26年度概算要求においても、委託単価や会議関係経費の積算単価等の見直しを行い、▲2百万円反映した。				
備考					
事業評価書 http://www.mext.go.jp/a_menu/hyouka/kekka/1311777.htm					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年	—	平成23年	—	平成24年	新24-0004

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

文部科学省 10百万円	諸謝金	0.3百万円	} を含む
	職員旅費	0.2百万円	
	委員等旅費	0百万円	
	教職員研修費	0.2百万円	

（学校を指定し、国際バカロレアの趣旨を踏まえたカリキュラムや指導方法、評価方法等に関する調査研究を推進するとともに、研究協議会(仮称)等の開催により調査研究成果の

※表示単位未満四捨五入の関係で、積み上げと合計は一致しない。

【公募・委託】

A. 国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育に関する調査研究 9百万円 国立大学法人・都道府県・市町村・学校法人 等 (全5件)
---

（国際バカロレアの趣旨を踏まえたカリキュラムや指導方法、評価方法等に関する調査研究を行う。）

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

**費目・使途**  
 (「資金の流れ」に  
 おいてブロックご  
 とに最大の金額  
 が支出されている  
 者について記載  
 する。費目と使途  
 の双方で実情が  
 分かるように記  
 載)

A. 学校法人関西学院			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
旅費	各種会議出席旅費、先進地調査旅費 等	2.4			
消耗品費	書籍、コピー用紙 等	0.3			
その他	各種会議参加費	0.4			
計		3.1	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	学校法人関西学院	国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究 (調査研究課題:IB教育を実施しているインターナショナルスクールでの教育活動を踏まえた、学習指導要領に則った授業へのIB教授法導入の有効性についての調査研究等)	3.1	企画競争	—
2	国立大学法人名古屋大学	国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究 (調査研究課題:IBDP-TOKの枠組みと評価方法を生かした協同的探究学習による自立した思考者としての生徒育成)	2.9	企画競争	—
3	京都市	国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究 (調査研究課題:「探究基礎」におけるTOKを踏まえた指導法及び論文・発表の評価法の研究開発等)	1.4	企画競争	—
4	学校法人聖心女子学院	国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究 (調査研究課題:IBの趣旨を踏まえた教育と自校の教育の関連性やIB教育の活用と発展の可能性についての研究)	0.8	企画競争	—
5	愛知県教育委員会	国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究 (調査研究課題:公民科(倫理)及び総合的な学習の時間等におけるTOKの趣旨を踏まえたカリキュラム開発)	0.8	企画競争	—
6					
7					
8					
9					
10					